



## 説教要旨 「子ロバに乗った凱旋」

ルカによる福音書 19章28～36節

旧約聖書のゼカリヤ書には次のような預言が記されています。

「娘シオンよ、大いに踊れ。娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者、高ぶることなく、ろばに乗って来る、雌ろばの子であるろばに乗って」。(ゼカリヤ書 9:9)

今日の箇所ではイエス様は、ゼカリヤが預言した“王”としてエルサレムに入城されようとしているのです。ゼカリヤが預言した“王”は、軍馬に乗った力を誇る王ではなく、ただ荷物を運ぶだけのろば、しかもろばの中でも小さい子ろばに乗って来る、そんな“平和の王”なのです。

イエス様は子ロバを連れてくるように二人を使いに出しました。その際、ロバの持ち主たちに『なぜ、子ろばをほどくのか』と咎められますが、二人はあらかじめイエス様から言われていたとおりに、『主がお入り用なのです』と言って子ロバを連れてくるのです。ここでは、この子ロバの本当の主人は誰か、ということが問題となっています。もちろん持ち主たちは自分たちこそ子ロバの主人だと思っています。しかしこの子ロバの本当の主人、所有者は彼らではないのです。彼らはあくまで、本当の主人からこの子ロバを預かっているに過ぎないのです。このロバの子は、自分の本当の主人であるイエス様に召し出されて、そのご用のために用いられるのです。

私たちはもともと、自分の人生の本当の主人を知らず、自分自身が主人であると思い込んで生きています。しかし実際の所は、誰か他の人に支配されていたりして、自分の思うとおりに生きることなど出来ていないのです。しかしそのように生きている私たちに、「主がお入り用なのです」。あなたの本当の主人が、あなたを必要とされているというみ言葉が告げられるのです。

主が必要とされているのは、見栄えがよく、力強い軍馬ではありません。みすぼらしく、非力な子ロバです。どうしようもない現実の中で、右往左往し、嘆くばかりの私たちです。しかしそんな、みすぼらしく、非力な私たちを、私たちの本当の主人であるイエス様は必要としてくださっているのです。